

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



仙台YMCAの児童館

～ 旭ヶ丘児童館、富沢児童館、西山児童館 ～



仙台市の児童館は健全な遊びを通して子どもの健康を増進し情操をゆたかにすることを目的とした児童厚生施設あるいはそれに準じた施設として、4つの機能を持っています。

(1)児童健全育成機能、(2)子育て家庭支援機能、(3)地域交流推進機能、(4)放課後児童健全育成事業(児童クラブ)

NPO法人 仙台YMCAファミリーセンターでは旭ヶ丘、富沢、西山の3つの児童館を運営しています。最近の児童館の様子を、機能別にお知らせします。

【放課後児童健全育成事業・児童健全育成事業】

「おかえりー！」リーダーたちが放課後小学校から帰ってくる子どもたちを受け入れるところから児童クラブが始まります。春休みの頃はまだ保育園、こども園を卒園したてで半べそで来館していた子どもたちも、体に不釣り合いなランドセルを背負って「〇〇リーダー！帰ってきたよー」とすっかり小学生が板についてきた様子。しかしながら、「僕が先に並んでいたんだよ！」「私が初めて使っていたんだよ！」おもちゃや順番をめぐる小さなトラブルがしょっちゅう起こり、その都度職員が仲立ちをして、他者と生活する術を丁寧に伝えています。

(第2面へつづく)

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人のかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を拡げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、

自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

2、3年生は帰ってくるなり、「今日はドッジボールできる？早く遊戯室あけてよ！」とにかく心と体の発散をしたい欲求があふれています。6年生は1年生や低学年と遊んでくれる優しい面をたくさん見せてくれます。

4、5年生は小学校の生活科を借りてのサテライト運営、カードゲーム、レゴ、風船バレーやゴム跳びを楽しみつつ、低学年とはまた違った心の動きのトラブルもあったり…。とにかく毎日が子どもたちにとってかけがえのない放課後、そのほんの短い時間をいかに充実させるかを支え考えることが私たちの仕事であることを職員の皆さんに共通理解していただくことを目標に取り組みでいきたいと感じています。

児童健全育成事業(自由来館)については、児童館ならではの地域ボランティアの方による読み聞かせや、中学生の遊戯室開放などの活動を児童クラブと並行して行なっています。その他にも、YMCAの特色を活かした自然体験活動、国際交流、ボランティア育成を児童健全育成事業にからめ、17年目の旭ヶ丘児童館運営を進めていきたいと思えます。

(旭ヶ丘児童館：伊藤雅宣)

【地域交流推進機能】

富沢地域の町内会はとても活気があり、主に富沢南町内会、富沢西町内会、南大野田町内会が夏場にそれぞれ大きなお祭りを開催します。さらに、「富沢・長町地区おやじの会地域ネットワーク」主催の『ざる川フェスティバル』(今では毎年テレビで特集されるほど大きなお祭りです)も秋に実施されます。

昨年度富沢児童館は、その全てのお祭りに招待していただき、職員とジュニアボランティア「トミザワイレブン」は屋台の運営補助、児童クラブ有志はステージでダンス発表を行いました。職員・ボランティア・児童クラブがそれぞれ地域と関わり、繋がり、自身の居場所を再認識できるとも素晴らしい機会だと感じています。

これらは全て今まで富沢児童館に関わっていただいた職員をはじめ、みなさまのおかげであり、これからも大切に繋いでいきたいと思えます。

(富沢児童館：村井真平)



【子育て家庭支援機能】

「鶴・燕・西子育て支援ネットワーク事業」とは、鶴ヶ谷市民センターの主催事業で、児童館や宮城野区家庭健康課、地域子育て支援団体等と定期的に情報共有・交換を行って連携体制を強化することや、各団体協働による乳幼児親子対象のイベントを開催し、保護者が交流・相談できる場を創出することで、孤立防止と地域全体で安心して子育てができる環境づくりを推進するという目的があります。



西山児童館でも、発足当初から毎年職員を派遣し、一緒に活動を行っております。今年度も早速6月10日(水)に「ウェルカムパーティー」があり、保健師さんによる子育てミニ講座や子育て支援施設の紹介、絵本の読み聞かせや子育てのおしゃべり相談タイムなどが行われました。

当日は、体調不良や都合が悪くなってしまった方もいましたが、最終的には10組の乳幼児親子のみなさんに利用していただきました。西山児童館としても児童館の紹介をさせていただきました。この繋がりが普段の施設利用にも繋がっていけばと思えます。

(西山児童館：清野俊輔)

YMCA と私

幼稚園

仙台 YMCA 幼稚園 保護者 西川陽介さん

現在、仙台 YMCA 幼稚園で4歳児クラスの息子と、2歳児クラスの娘がお世話になっております、保護者の西川と申します。私自身、息子が入園するまでは、YMCAとは無縁の生活を送っておりました。今回は、この1年間で特に印象深かった2つの出来事をご紹介します。

1つ目は、幼稚園の素晴らしい教育理念と、それを実践されている先生方の遂行力に感激したことです。話は少し変わりますが、昨年開催された大阪万博のパビリオン「いのち動的平衡館」(生物学者・福岡伸一氏プロデュース)では、「生物の進化は利己的な競争ではなく、本質的には『利他的』な共生や協力によって進んできた」という生命哲学が提示されていました。ほぼ同時期に開催された息子の3歳児クラス懇談会で、担任の先生から「年少期は自己認知から客観的視点を獲得していく大切な時期である」というお話を伺い、先の生命哲学に基づくと、息子は大切な時期を過ごしているのだと改めて感じました。「三つ子の魂百まで」ということわざがありますが、幼稚園の先生方が子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、その大切な成長期を支えてくださっていることに深く感謝しています。

2つ目は、保護者で構成される「人形劇サークル」での経験です。昨年所属しているものの、実際に練習へ参加できたのは2、3回ほどで、ここで語るの少し気後れします(リーダーをはじめ、メンバーの皆さん、申し訳ありません……!)。それでも今回どうしてもお伝えしたいのは、このサークルで過ごした時間が本当に楽しかったということです。練習の雰囲気は素晴らしいのは、メンバーの皆さんが「やらされている」のではなく、自ら楽しみながら取り組んでいるからだと思えます。そして本番では、園児たちの弾けるような歓声と笑顔に包まれ、胸がいっぱいになりました。子どもたちに心から喜んでもらえる経験は、大人にとってもかけがえのない幸せな時間です。今年もメンバーの皆さんと楽しく練習を重ね、子どもたちの笑顔に出会える本番を心待ちにしています。最後に、本寄稿を通じて楽しかった1年を振り返る機会をくださいました、仙台 YMCA 幼稚園の高橋祐子園長に心より御礼申し上げます。



【サッカークラブジュニア】

YMCAジュニアクラブでは、仙台市内 4会場で 5つのサッカークラスを運営しています。その中で、対外試合に参加する小学 3年生から 6年生を対象とした「サッカークラブジュニア」の活動も行っています。今回は、この『サッカークラブジュニア』についてご紹介します。サッカークラブジュニアは、YMCAサッカークラスに在籍する子どもたちの中から、クラスディレクターの推薦を受けたメンバーで構成されています。現在は、3年生 5名、4年生 8名、5年生 12名、6年生 11名の計 36名が在籍していますが、学年ごとに参加する大会が異なり、

- ・3年生：秋のくまがい杯
- ・4年生：春～秋に開催されるミヤギテレビ杯 4年生大会
- ・5年生：秋のミヤギテレビ杯新人大会
- ・6年生：秋の全日本 U12サッカー選手権大会

といった、それぞれの大会に向けて、毎週土・日に練習や試合に取り組んでいます。

サッカークラブは1980年に設立されました。当時は、保護者が練習に付き添い、指導者の飲み物や食事を準備するなど、負担の大きい「サッカースポーツ少年団」が主流でした。そんな中、保護者の負担を最小限にしたYMCAのクラブ運営は、宮城県でも画期的な取り組みだったと言えます。現在は、YMCAと同様に保護者の負担を軽減したチームが増え、子どもたちがサッカーに取り組みやすい環境が広がっています。私たちはクラブ創設当初から、

- ・子どもたちが自立できる環境
- ・子ども自身がチーム運営の担い手であると実感できる環境
- ・責任感を育む環境
- ・保護者の負担が極力少ない環境

を大切にし、サッカー技術の習得だけでなく、子どもたち一人ひとりが自立し、社会の一員としての自覚を育むことを目指して活動しています。



サッカークラブの詳しい活動内容は、Instagram 「sendai_ymca_soccer」で紹介しています。試合結果や日々の活動の様子をぜひご覧ください。

(健康教育事業部：佐久間渉)

【夏のプログラム】

YMCAジュニアクラブでは、この夏も子どもたちの成長を支えるさまざまなプログラムを実施します。短期間で集中して挑戦する活動や、自然の中で仲間と過ごす体験を通して、心と身体の成長を育てていきます。毎年多くの方にご参加いただく「集中水泳」では、5日間連続でプール活動を行います。短期間で継続して練習することで、水に慣れることはもちろん、「できた！」という達成感や自信へとつながっていきます。苦手なことにも挑戦し、あきらめずに取り組む姿勢を育む機会となっています。また、「運動クラブ」では、参加者の学年に合わせた5日間のプログラムを実施します。マット運動や跳び箱、鉄棒など、さまざまな運動にチャレンジしながら、身体を動かす楽しさを感じてもらえる内容となっています。一人ひとりの成長に寄り添いながら、基礎体力や挑戦する気持ちを育てていきます。

夏休みならではのキャンププログラムも充実しています。自然体験活動として、花山青少年自然の家でのキャンプを2つ、松島自然の家でのキャンプを2つ実施予定です。自然の中で仲間と協力しながら活動することで、自立心や協調性、思いやりの心を育てます。さらに、サッカーのキャンプも2つ予定しており、仲間と共に技術向上を目指しながら、チームワークや最後まで頑張る力を学んでいきます。そして、石巻市の網地島(あじしま)を訪れるキャンプでは、海や自然に触れながら、普段の生活では味わえない貴重な体験を行います。

YMCAジュニアクラブでは、スポーツや自然体験活動をととして、子どもたちの「全人的成長」を大切にしています。この夏も、多くの挑戦や出会いの中で、一人ひとりが大きく成長できる機会となるよう活動してまいります。なお、各プログラムの申込みは6月22日より開始予定です。詳細につきましては、配布案内やホームページをご確認いただき、多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



(健康教育事業部：糟谷昌洋)

維持会費 (5月20日～6月15日)

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

◆一般会員

維持会員A 吉田一恵、神原雅子

竹谷智恵子

パートナー会員A 阿部頌栄

※敬称略



絵：伊勢文夫さん

一般会員・サポート会員を

随時募集中です

ぜひ会員として、

仙台YMCAの活動をお支えください

お問い合わせ：本部事務局

TEL:022-222-7533

FAX:022-222-2952

連載

加藤 総主事の

『みつかる。つながる。
よくなっていく。』

第28回

『出会いが「ずっと続く」場所』



6月14日(日)、仙台YMCAバザーが開催されました。

職員、ワイズメンズクラブの皆さん、ユースリーダー、幼稚園の園児たち、児童館のボランティアグループ、専門学校の学生たちなど、さまざまな立場の方々から物品バザーや模擬店の運営を支えてくださいました。ひとりひとりの力が結集したこの日、会場はあちこちから笑顔があふれ温かな空気に包まれていました。

その中で、私がひととき嬉しく感じたのは、訪れてくださった皆さんとの「再会」でした。「近くに引っ越してきたので、また来てみました」と笑顔で声をかけてくださった元職員の方。「実は私のお母さんは職員なんです」と顔を見せてくれた現役リーダーとお母さん。子どものころからYMCAのさまざまなプログラムに参加し、今は大学生となりリーダーとして活躍中の学生。彼女がかけてくれた言葉は「お久しぶりです！」でした。「今日は別の用事があるんだけど、ちょっと寄ってみました」と立ち寄ってくださった元メンバー。「はじめまして！加藤さんですか？お話ししたかったんです」と目を輝かせてくれた A君。実は、お母さんが私のことをよく知っていて、いつか話したいと言っていたそうです。そしてSNSのDMには、「山形に用事があったので仙台に入ったので寄ってみたのですが、バザーは終わっていました……」と東京在住の卒業生からのメッセージも届きました。

改めて思うのです。YMCAというのは、出会いが「ずっと続く」場所なのだ。

YMCAで過ごした時間が、ふとよみがえる。「そういえば、あの人はどうしているだろう」。そんな気持ちが足を向けさせてくれる。バザーの日に偶然交わした数分の言葉が、何年ぶりかの「つながり」を思い起こさせてくれる。こうした瞬間は、ボランティアとして参加してくださった皆さんのそれぞれの持ち場でも、きっと同じように起きていたに違いありません。

YMCAは、まさに Encounter(出会い)・Connect(つながり)・Transform(変わっていく)場です。「よくなっていく」というのは、何かが劇的に変わることだけではありません。久しぶりに誰かと顔を合わせて、ほっとする。「来てよかった」と思える瞬間が生まれる。それだけで、その日、その人の中の何かが少し変わる。そんな小さな積み重ねが、地域の平和を、少しずつ、しかし確かに作り上げていくのだと、この日一日を通して、あらためて感じました。参加してくださった皆さん、そして、ボランティアの皆さん。ありがとうございました。そしてまた、YMCAでお会いしましょう。



INFORMATION

駅伝で心の襷(たすき)を受け渡し、障がいのある子どもたちを支援する恒例のイベント、仙台YMCAインターナショナル・チャリティーランは今回で第32回を迎えます。皆様におかれましては、これまでにご多大なるご支援とご協力を賜り心より深く感謝申し上げます。

この収益は、子ども支援基金(BAPY)、全国CCP支援、ともだち川遊びキャンプ、フリッパークラブ、ともだち雪あそびキャンプ、放課後デイサービスYMCA(きぼう・みらい)に充てられ、障がいのある子どもたちとその家族、そして地域を支える力となります。イベントへの参加は勿論のこと、参加される方々への応援とイベントへのご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



(第32回仙台YMCAインターナショナル・チャリティーラン2026実行委員長：広瀬川ワイズメンズクラブ / 橋本 俊博)

INTERNATIONAL CHARITY RUN

9/27 SUN.

2026

第32回仙台YMCA
インターナショナルチャリティーラン
2026年9月27日(日)
会場：仙台市西公園中央広場

今年も西公園を会場に、2026年9月27日(日)、第32回仙台YMCAインターナショナル・チャリティーラン2026が開催されます。心身に障がいのある子どもたちを支援し、誰もが共に生きる豊かな社会の実現を目指して開催されるイベントです。皆さまもぜひ、一緒に走って、応援して、楽しんで、チャリティーの輪を広げましょう！
(チャリティーラン担当職員：山野克俊)